

# 山村明弘作画集

— 療養の日々に —

# 山村明弘作画集

— 療養の日々に —



はじめに

山村さんの日常は、趣味である熱帯魚を飼いながら、時間があれば絵を描いています。最近では筆を使って描くことが難しくなり、マジックや色鉛筆など用います。題材は、景色特に山の絵が中心ですが、山を見て描くのではなく、以前見たものを頭に思い浮かべて描いているようです。

自らリハビリ運動に取り組み、園外活動へも参加し前向きに生活を送り、ホームでの生活を楽しんでいます。

以前入所していた施設のことを時々思い出すようで、笑ったり怒ったりしていましたが、今回の絵画展に懐かしい職員が大勢で見に来てくれ、感激に涙していました。

絵画展へ向け、スーツやネクタイ、帽子など全て自分で選び、職員に試着した姿を見てもらおうと、照れた様子でニコニコしながら頭をかき、まんざらでもない様子でした。

アンケートから

2009年6月19日～21日、長泉町文化センター・ベルフォーレにて「山村明弘絵画展」を開催しました。

3日間の絵画展を通して、たくさんの方々からメッセージをいただきました。関係者だけであることを予想していましたが、これに反して多くの一般の方々のご来場があり、大盛況といっても過言ではありませんでした。その一部をご紹介します。

- 絵に対する熱心な姿勢に感動しました。
- 根気強さに敬服します。
- 心が和みました。
- 自分の思いを作品に表現できて素晴らしいです。
- 初めてお会いしたのに心の底から震えたつ程のパワーをいただきました。病と闘いながら10年経ちますが、私ももう一度頑張ろうと思わせていただきました。素晴らしい時間をありがとうございました。
- 多少絵を志しているものとして色使いやおおらかな絵にとっても刺激を受けました。
- 力強い絵で私も頑張らなくてはと思いました。
- 絵が描けるのは素晴らしいですね。どの作品も気持ちが表れています。今まで見た絵とは違う印象を受け新鮮でした。

絵は見る人に感動を与えるものであるということに気づかされました。

大きさにいえば、心の叫び、心のあり方が表されるものだと思います。

山村さんの3年間の努力の証として、また思い出の意味も込めてこの作画集を作りました。



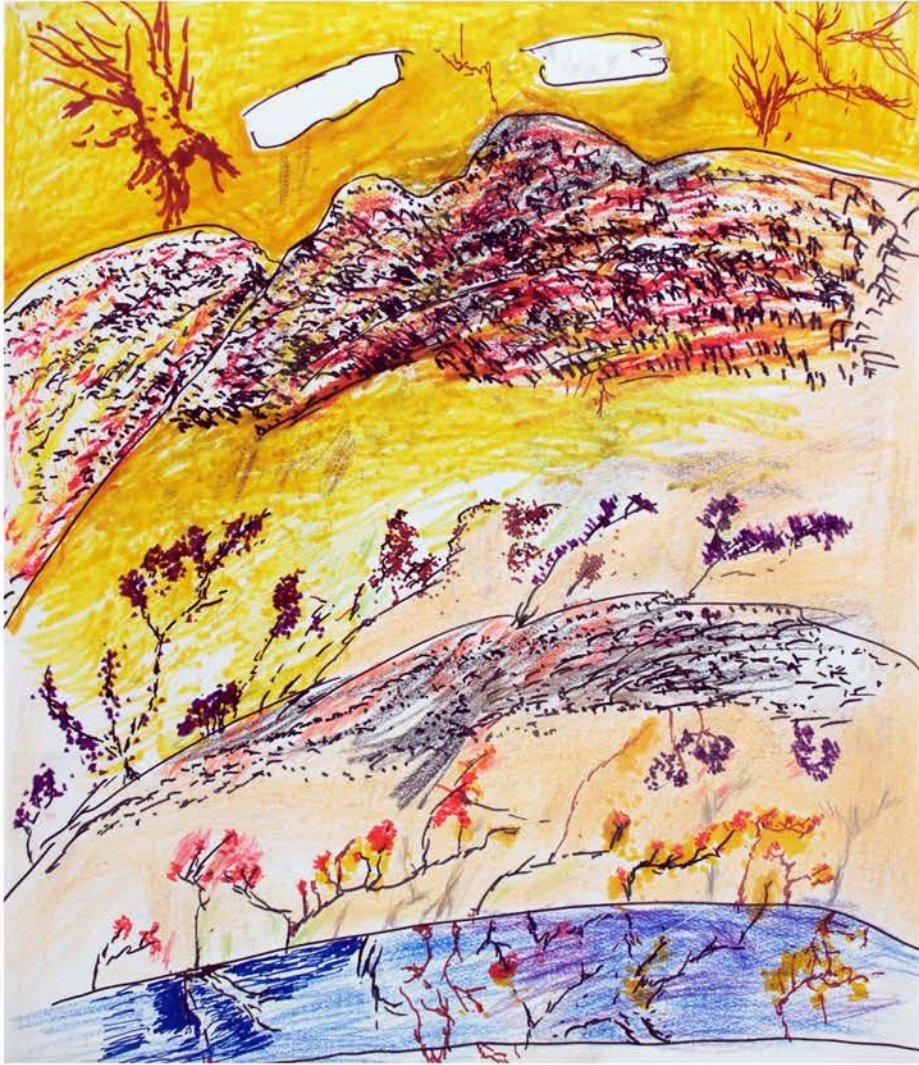
亀の産卵（八王子の山で）



食堂から見たあしたか山



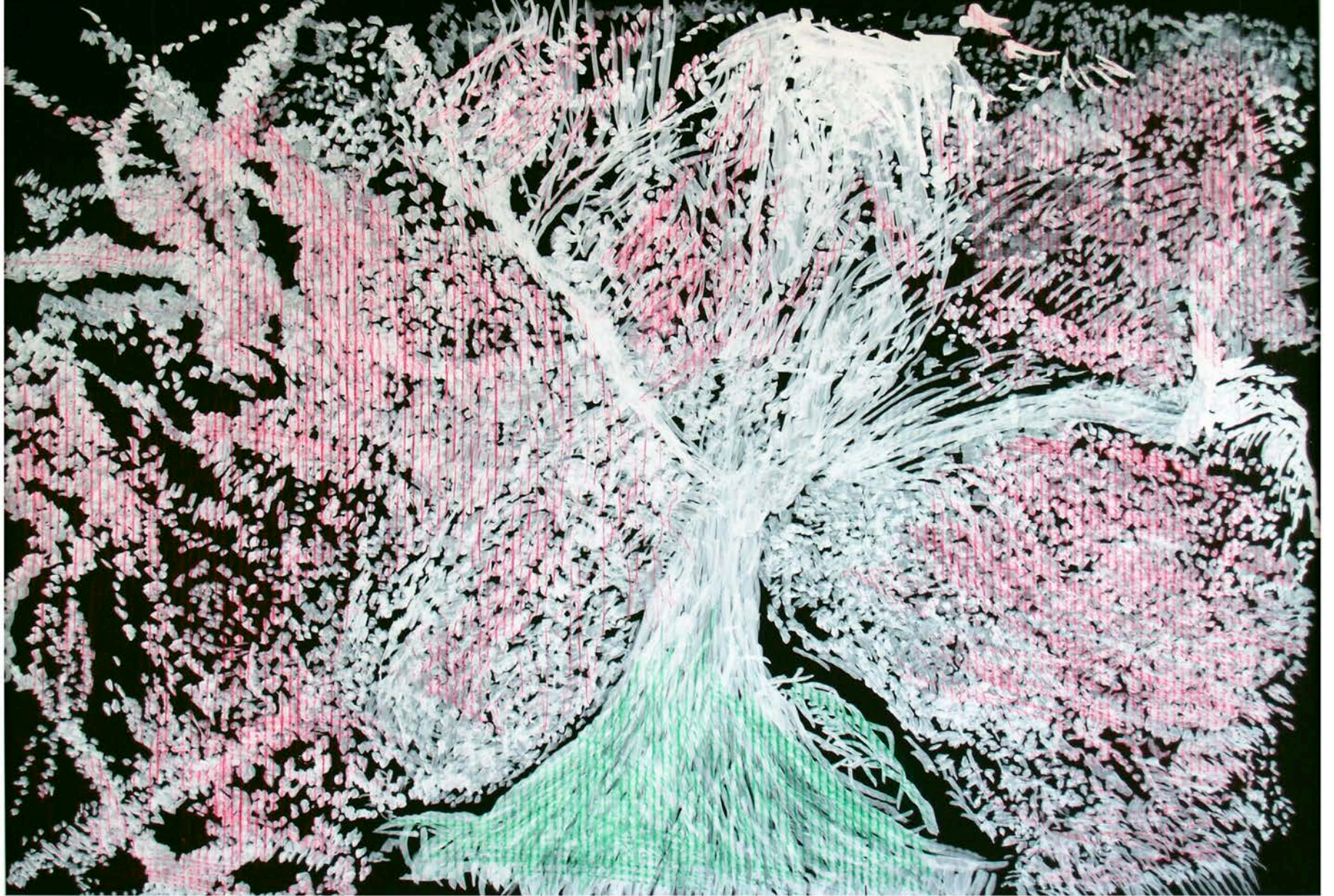
玄関から見える風景



春の桃沢川



桜



熱海の夜の桜



明成園からの富士山



山梨の冬の富士山





赤富士



赤富士



夕焼けの富士



富士と雲



朝の富士山



岩



富士山と林



林



太陽と林



雨の山々



秋の風景



秋の富士山



窓から見える風景



松



紅葉





春の夕焼け



滝と山々



滝



白糸の滝



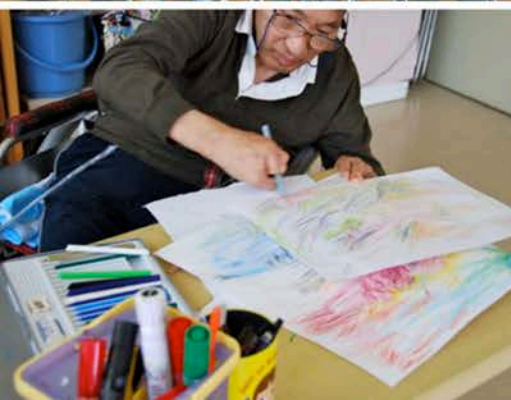
春の花



花



食堂から見える林



### 〈山村明弘プロフィール〉 Akihiro Yamamura

1936年5月4日 東京に生まれる

中学卒業後より働き、仕事を転々としたのち長泉町に移る。

50歳の時に自宅で脳梗塞を起こし左半身麻痺となる。

53歳で障害者施設へ入所。66歳で転倒により骨折し車椅子生活となる。

障害者施設入所後から絵を描き始める。ギャラリーを見学したり、時には絵画展へ出品したこともある。

旅行が好きで、元気な頃は四国や韓国にまで出かけ、野球観戦にも行っている。

2006年4月に特別養護老人ホーム「ながいずみホーム」に入所、現在に至る。

### あとがき

個展をやろうか?・・・と気軽に企画したものの開催した経験もありませんでした。友人の伝手を頼ってアドバイスいただいて、なんとか形になりました。

予想以上に本格的でびっくりしたり、感激したりですが、一番驚いたのは山村さんご自身ではなかったのではないのでしょうか。今の感想はとの問いに「最高です」と満面の笑みで答えたその表情は、今までみたこともないような自信にあふれたものでした。それだけすてきな絵画展でした。ひたむきに描き続けた絵画を皆さんに見てもらおうということが、山村さんの自己実現を図ることにつながったとしたらとてもうれしいことです。

ながいずみホームの杉山好文施設長、指導員の杉山一彦さんはじめ施設の皆様の全面的な協力なくしては実現しませんでした。今回の「山村明弘絵画展」の開催及び本画集の作成について、中村善和・伸子御夫妻には大変お世話になりました。また、受付等を快く引き受けてくださった方々始めお手伝いくださった皆様方には心から感謝いたします。

2009年7月吉日 古谷 礼子

